

## 第1回 武蔵野市中学校給食検討委員会 議事要録

■日 時：平成18年7月31日 午後6時～8時20分

■会 場：市役所801会議室

■出席委員：佐々木委員長、原副委員長、伊藤委員、大久保委員、尾関委員、下山委員、高木委員、賞雅委員、田島委員、中野委員、長野委員、松野委員、三浦委員、森委員、屋部委員

■事務局：山上教育長、金子教育部長、平岡給食課長、小山、坂井

■傍聴人：5人

開会

(委嘱状交付)

(教育長あいさつ)

(委員自己紹介)

(事務局紹介)

(資料確認)

議題1 委員長の互選について

佐々木委員を委員長に選任

議題2 副委員長の互選について

原委員を副委員長に選任

議題3 委員会の公開について

【事務局】 委員会は、原則公開とし、公開は、会議の傍聴、会議録のホームページ掲載、閲覧などを予定し、傍聴基準を別に定める。なお、委員会で認めた場合には、秘密会にすることができる。会議録は、要録とし、発言者は、「委員長」、「委員」、「事務局」とし、氏名は掲載しない。会議録の公開は、委員会で承認を得た後とする。

傍聴は、申し込み制とし、傍聴基準に従って認めたい。人数は10人を定員とするが、状況に応じて委員会で決めていただくことは可能と考える。

【委員】 公開には同感だが、委員会の意思決定について決めてもらいたい。多数決で決めることは避けるべきと思うが、何か決する必要がある場合はどのように意思決定をするのか。

【事務局】 委員会自治の問題なので、委員会の中でどうするか決めてもらうことになるが、

この委員会は、何かを決めるというよりは、いろいろな意見を出し合っただけという性格が強い委員会と考えている。

【委員長】 基本的には話し合いを重視していきたい。どうしても必要があるときは、多数決によって前に進ませていただき、問題があるときは戻るといふことでいきたい。

【委員長】 会議の公開についての承認は、事務局説明のとおりでよろしいか。

(異議なしの声あり)

【委員長】 それでは、事務局案のとおりとする。

【委員】 委員会の任務だが、設置要綱では、「処理する」と書いてあるだけで、いつ、どのようにまとめるかが明示されていないが、どのようにまとめればいいのか。

【事務局】 中学校給食の実施について、教育委員会で一定の方向性を示し、最終的に決めるのは市長になる。その過程でさまざまな意見や課題などを参考に決定することになる。

そこでこの委員会の性格、位置づけについては、諮問をして答申をいただくという形ではなく、様々な意見や課題等を具体的に議論していただき、その中で出てくる方向性などをまとめて提案なり提言という形でいただければと考えている。

【委員】 2回目の検討課題、3回目の検討課題とスケジュールを示され、各自で情報収集や配布資料を参考にした意見を持ち寄ればいいのか。

【事務局】 今の段階では、スケジュールや方向性について固めているわけではないので、一から議論いただきたい。その中で方向性がみえてくるのではないかと考えている。

【委員】 中学校給食の完全実施は、既定方針として決まったことなのか。

【事務局】 まだ決まっていない。検討委員会の検討などを参考に決めていくことになる。

【委員】 中学校給食実施は、最終的に市長が決めると話があったが、それは正確なことか。

【事務局】 学校給食法には、学校の設置者、すなわち市長が実施するとなっている。

【委員】 それは、議会で審議せずに決定できる事項か。

【事務局】 施策をどういう形で決めるかということによる。

【委員】 予算の審議などで議会の関与はあるのではないか。その点で市長だけで決められることではないのではないか。

【事務局】 予算などは、当然議会の審議が必要であり、そういう点での議会の関与はある。

【委員長】 傍聴希望者が待っているので入場させていただきたい。

(傍聴者入場)

#### 議題4 中学校給食の現状について

【事務局】 中学校給食庁内検討委員会の調査結果について説明。

【委員長】 事務局の資料説明をもとに、特にアンケートの結果などについて意見を伺いたい。

【委員】 弁当を持ってこない生徒に対して、学校ではどのような対応をしているのか。

【委員】 昼食を食べていない生徒はいない。やむを得ず弁当を持ってこられない生徒は、あっせんの弁当を購入している子がいる。1校あたり1日平均で10人以下だと思う。

【委員】 あっせん弁当というのはどういうものか。

【委員】 あっせん弁当の内容やそれぞれの学校の現状について、委員により知っている情報に差があるので、PTA代表の方から各学校の状況を伺って、情報を共有してはどうか。

【委員長】 各学校の状況についてPTA代表の方から状況を説明いただきたい。

【委員】 二中は、400円の弁当で、メニューは、月曜日から金曜日まで決まっている。メニューを見て利用する生徒もいるようだ。親の都合で弁当を持ってこないといっても、実際は子どもの希望で利用している例もある。毎日利用する生徒は少ないようで、利用数は多くて20食、少ない日は4、5食くらいしかない。事前に弁当券を購入し、注文は、当日の朝、チケットと一緒に申し込む。弁当券を忘れたときなどは、相談すれば先生が立て替え、後日支払うなどの対応もしている。

【委員】 三中は、11時までに注文して業者を利用している。私は一度も利用したことがないので詳しいことまで分からないが、子供の話では、「緊急避難的、空腹を満たすため」という中身で、給食のように配慮されていない感じがする。

【委員】 六中は、値段が400円で1時間目後の休み時間までに事務室に券を持って行く。メニューは事前には分からないようだが、どういうわけかカレーの日だけ分かるようで、その日は30人ぐらいの申し込みがある。それ以外は、大体一けただったと思う。内容は、お弁当で、おかずのパックとご飯のパックという形で届けられる。

【委員】 五中は、1個あたり150円のパンになっている。少し高額だが、天然酵母を利用したパンで、なるべく主食とおかずが一緒になった形ということで、調理パン中心に菓子パンも用意され、ボリュームもあって評判がいい。緊急避難的というだけでなくおいしいので、週に1回は「パンの日」という形で利用する子供も多いようだ。女の子だと2つぐらいですむようだが、男の子だと3つも4つも食べ、パンといっても高くなってしまふ。お弁当を持ってきた子は、パンを注文してはいけないことになっている。

【委員】 一中は、1食420円で、おにぎりかサンドイッチを選ぶことができ、券を事前に購

入し、1時間目終了のとき職員室に申し込むようになっている。店の定休日の金曜日は、注文できない。

【委員】 四中は、一中と同じところを利用しており、制度もほぼ同じだ。

私は一度も利用したことが無いが、「ここの弁当がいい」と言ってよく利用する子もいるようだ。弁当を忘れ、チケットも忘れた子に対しては、学校で副校長先生に言えば、「たてかえ」という形で対応をしてくれる。また、四中では「買い弁」が認められており、学校に行く途中で、コンビニなどで弁当を買うことが許されているが、「買い弁」をする子はそんなに多くはないと聞いている。

【委員】 最近の弁当業者は、保温効果のある容器で回収型を使うが、あっせん弁当はどうか。

【委員】 弁当箱は回収型だが、保温効果はない。ただし、発泡スチロールの箱に入っているので、食べる時まで温かい。

【委員長】 親の弁当を持ってくる生徒が多い中で、手作り弁当を食べていないことに対する子どもの心理状況はどうか。

【委員】 男の子は、コンビニ弁当やあっせん弁当を嫌がる子は少ないようだ。必ずしも「親が作れないから、不幸だ」という感じではない。「弁当を持ってこないイコール不幸」という概念は、今の子供たちには無いと思う。

【委員】 コンビニで「買い弁」していきたいという男子生徒も結構いるようで、その辺からいけばかわいそうなことではない。ただあっせん弁当をよく利用する生徒を、子どもたちは、毎日メニューが変わるといっても、1週間サイクルで、月曜日はこれ、火曜日はこれと決まっているから、「かわいそうだ」と思っている面もあるようだが、それはそれで済んでいるような気がする。

【委員】 アンケートには、弁当の中身を聞いている質問があったが、親は見栄を張るところがあり「栄養バランスを考えています」と書いていても、実態として栄養バランスがいつも考えられているかどうか疑問がある。実態を把握するには、子供から聞いた方が確実ではないか。

ある市で、栄養士が子供にアンケートを行い、今日の弁当の中身は何かと確認したところ、ほとんどのお弁当が鳥の唐揚げ、玉子焼きだった事例がある。野菜や煮物は出てこない。弁当といっても中身が問題だと思うので、実態を調べてはどうか。

【委員】 いろいろな現状を全国で見ているが、弁当のおかずには、大体同じメーカーのものが流行で入る。最近は冷凍のまま入れ、昼になると解凍されているきんぴらゴボウのようなおかずが多いようだ。親が彩りを考えると、必ずブロッコリーとプチトマトが入るとか、見た目

が重要視されている。栄養バランスが大切だということを知っているから、プチトマト1個入ただけで「栄養バランスを考えている」という回答が多くなり、とれていると思いこんでいるだけかもしれない。確実な調査をするには、毎日食べた物を、写真を撮って確認することだ。実施できるかどうかは別として、学校で弁当の写真を撮ってもらうと、実態が鮮明にわかれると思う。

【委員】 アンケートでは81%の保護者が給食の実施を望んでいる。手づくり弁当を一生懸命作っている保護者にあっても、80%以上が中学校給食の実施が望ましいと考えているのは、栄養バランスや献立などを考えると、弁当には限界があり、子供にいいものを食べさせたいという思いから中学校給食を望んでいるのではないか。手を抜くだけであれば、買い弁やあっせん弁当でもいいと思うが、実際には一生懸命弁当を作っているお母さんやお父さんが中学校給食の実施を望んでいるということは、もっといいものを食べさせたいということだと思う。

【委員】 この会に出るに当たり、子供に「中学校が給食になるかもしれないけれど、どう思う」と聞いた。すると、「給食になったら、食べる時間がなくなる」という言葉が出た。子供たちは、授業があって、その後にクラブ活動や委員会活動がある。遊ぶだけでなく、昼休みを有効に使っている子供たちも多く、給食になると配膳、後片づけの時間が必要になる。しっかり食べる時間を確保することができるか心配だ。

【委員】 前任の給食のある学校では、準備に15分、食べるのに20分、片付けに15分ぐらいかかっていた。それらを考えると、下校時刻が20分くらい遅くなることも予測される。そうになると、クラブ活動などの放課後の活動に時間的余裕がなくなることは考えられる。

【委員】 給食が実施されれば、「栄養バランスがとれていい」という意見があるが、娘の学校では、残飯を自由に捨てている。子供たちが嫌いなメニューになると、その残飯がいっぱいになるそうだ。給食にすれば栄養バランスがとれるというのは、全部食べたときの話で、食べ残しを考えると架空の話である。給食を100%食べ切れば、栄養バランス云々が給食のメリットといえるだろう。しかし、現状はそうではないのではないか。

【委員】 栄養バランスは、各年代の1日の栄養所要量の3分の1を満たすことを前提としており、一応全部食べなければ足りなくなる。ただ、子供たちの食生活調査の結果を見ると、8月はひどい状況で、給食がないからだと思わざるを得ない。

アメリカの例だが、子供たちに野菜や果物を一かけら、1週間に3回とか4回、ちょっとだけでも口に入れさせるというプログラムがある。嫌いなら戻してもいいから、1回は口に入れてみる。それを1年、2年と続け、口に入れてみればまずくないことを気づかせることが出来

るという例がある。

学校給食でも、嫌いなものときは残飯が多くなるというデメリットはあるが、いろいろな食材とか調理法に接することができるメリットがある。

【委員】 それは、6年間小学校で給食を経験していることで行われていると思う。

【委員】 私は、給食のメニューを見ながら子供のお弁当を作ったが、給食を食べている子とできるだけ共通の話題が持てるように、同じメニューを心がけた。給食には、栄養計算上かなり無理なメニューもあり、給食のメニューが必ずしも食育的にいいものとは思わなかった。

【委員】 栄養士の思いや力量、調理員の体制などもあると思う。給食が全部いいわけでもないし、弁当がすべてということでもないと思うので、その辺を皆さんと話をしたい。

【委員】 弁当の一番いいところは、親と子供のコミュニケーションが深まることだと思う。最近、親子のコミュニケーションが希薄になってきている状況の中で、ただでさえ薄いコミュニケーションをさらに薄くする施策をすることは、教育上、疑問がある。

給食が、食育という形の教育の一環だとすれば、それは教育委員会が検討して決めるべきもので、決して多数決で決めるようなものではないと思う。給食のあり方、あるべき姿、給食を教育の中に入れるということは、あくまで教育委員会が決める性質のものであることを踏まえて、我々は議論をしていかないといけない。

【委員】 教育委員会では、「中学校給食をやらない」という方針を改めて検討しましょうということになってこの場があると思う。教育委員会への答申という形ではないという話だが、検討委員会のまとめを参考に教育委員会が判断するというのでいいのではないか。

【委員】 「たくさんの親がこう思っているから」というだけで、多数決で「その方法にしましょう」と決める性質のものではないということを申し上げたい。

【委員】 今の武蔵野市の給食はいい水準になっていると思っている。それで、残飯はそんなに多く出ていると聞いていないので、資料等あればお願いしたい。

【委員長】 残飯の量については、資料が出るようであれば次回お願いしたい。メニューに対する評価もある程度高いと思う。それについての資料も用意できればお願いしたい。

【委員】 中学生は教室を離れての授業も多く、教室に戻り、弁当を食べるといっても、全員がそろそろまで時間がかかる。以前、給食のある学校にいたときは、準備に30～35分かかっていた。それによって授業が終わる時間が遅くなり、放課後の活動が制限されることもある。また、食べ残しについては、中学生の食べ残しは巧妙で、自分が好きでないものはよそわない。かむ回数が多い硬い物も避ける。たとえ栄養士が一生懸命考え、「食べなさい」と言っても食べさ

せるのは大変な面がある。

弁当については、「親が作ったものはちゃんと座って食べるので、なるべく買って済ませないでほしい。子供たちは食べるのが仕事なので、お母さんが作ったものが一番いい」と指導した。おかげで保護者の方に、「弁当を食べさせる」という意識を持っていただけたと思っている。子どもたちも大事に食べ、まさに親の愛情あつてのことと思った。

保護者の苦労ということについては、普通にご飯をつくってあげるといううちのひとつと提供いただけないかと思う。

【委員長】 予定時刻を過ぎているので、本日の意見交換はここまでとさせていただきたい。

#### 議題5 その他

(次回日程調整)

【委員長】 次回は9月14日、午後6時とする。なお、会場は、事務局から通知する。

【事務局】 次回資料の確認をしたい。給食の残菜状況と献立に関する資料要求があつたと思う。

【委員】 中学校で給食を実施している市の金額について。また、食育基本法関連の資料をお願いしたい。また、小学校でそばを食べて死亡したケースがあつたが、そういうアレルギー対応についてはどうか。

【委員長】 次回、用意できるものは、事務局に資料として準備をお願いしたい。他にも資料要求があつたら事務局までお願いしたい。

それでは、皆さん、ご苦労様でした。

閉会